

爆撃機B29に遭う

西区上野芝町

安東 利彦

昭和20年3月13日より8月15日までの私の体験です。

私は当時大阪の西区に住んでいました。71年前の20年3月13日未明に、アメリカ空軍の爆撃機ボーイングB29による大阪大空襲に遭いました。私は中学生（住友工業学校の1年生）で、自宅は焼夷弾の雨あられの爆撃により被災しました。

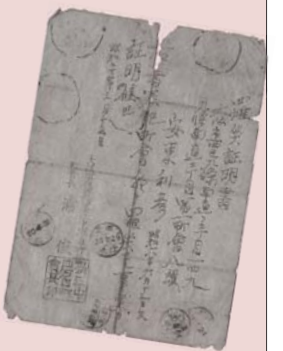
始めのうちは備え付けの防火用水の水で、火叩き（縄で編んだもの）を使って消火していましたが、到底消すことが出来ず、生後5カ月の弟と母とで、西区境川にあった大阪市の交通局の地下室へ避難しました（父は町内会の役員として出向いていました）。夜が明けて地上へでると、辺り一面焼土と化していました。また、学校（大阪市港区市岡）も被災し灰燼と化しました。とりあえず住吉の叔父さん宅まで歩いてきました。

2、3日してから学校の焼け跡整理に行くのですが、電車は誰でもが乗れないんです。罹災証明を発行してもらい、それを提示しなくては切符が買えないんです（南海電車沢の町駅でその都度提示してスタンプを押してもらった）。

「とも」9月号に掲載した戦争体験手記募集を見て、お寄せいただいた手記を順次掲載していきます。

私の戦争体験

寄稿



罹災証明書

4月に入り、学生は学徒動員と言って、住友金属の桜島工場へ行かされました。毎日が空襲で爆弾攻撃にあい、警戒警報が鳴ると淀川の堤防まで走って逃げたものです。このままでは学生は危険とのことで、吹田の同じ住友金属の工場（飛行機のプロペラ等製造）へ移されました。ここもまた毎日の様に空襲で警報がなると、千里山の竹林まで走って逃げるのです。途中艦載機のグラマン等が急降下してきて、狙い撃ちで死んだ人もいました。

7月10日の堺、住吉の大空襲で住吉の自宅は再度全焼しました。隣の住人のご婦人が焼夷弾に直撃され全身が火達磨となり、畑の中の井戸へ飛び込み死ぬのを見ました。8月14日（翌日の15日で終戦となる）にも、大阪京橋駅側の大阪砲兵工廠の大空襲による爆弾攻撃があり、電車が止まり吹田の工場から住吉まで歩いて帰りました。途中空襲で被災されたたくさんの方が死んでいました。戦争は悲惨なものです。東京、大阪、広島、長崎、ほか一般市民が何百万人と死にました。二度とするものではありません。

お楽しみクイズ
クロスワードパズル

- 応募方法／郵便ハガキにクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・友の会に対するご意見等を記入のうえ、あて先／〒590-0824 堺市堺区老松町2丁58-1 友の会事務局「お楽しみクイズ」係あてにご郵送ください。
- しめきり／2017年1月11日（水）消印有効
- 当選発表／厳正なる抽選の上、10人のかたに賞品（図書カード5000円分）を、賞品の発送をもって発表に替えてさせていただきます。
- クロスワードパズル解答はがきに書かれた「ご意見」は、紙面に掲載させていただきます。ご了承ください。

タテのキー

- ①〇〇つき、〇〇八百
- ②最後に落ちをつける話

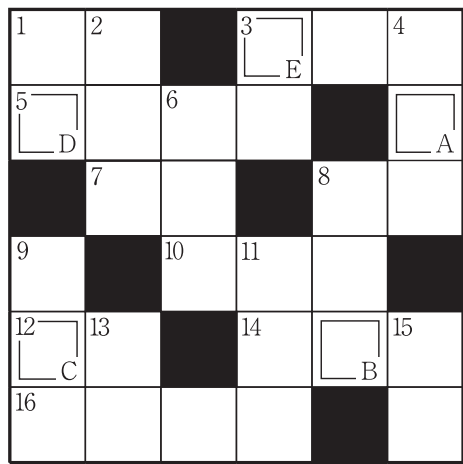
芸

- ③カツレツの略
- ④で顔を拭く
- ⑥大丈夫と判を押す
- ⑧が素敵
- ⑨過疎の対
- ⑪離れた人

ヨコのキー

- ⑬〇〇も積もれば山
- ⑮〇〇をつかむような話
- ①うまい話には〇〇がある
- ③正月に――取りで遊ぶ
- ⑤急ぐので――で郵送
- ⑦ボキャブラリー
- ⑧大サイズ。〇〇寸
- ⑩中国第二の大河
- ⑫〇〇ならぬ恋
- ⑭――にない、とトボける
- ⑯つりがきともいう

カギを解き、二重ワクに入る
文字をABC順に並べてできる
言葉は何？



- 10月号の答「タイリョク（体力）」
- 応募数／74通

俳句

鰯雲広がり家事のきりもなし

柿本 初野（中区八田北町）

知らぬ間に過疎の極みか冬ごるる

林 研 富田林市津山邑

（富田県に父親から継いだ土地・田・山林がある。地籍調査で呼ばれて久しぶりに行くと、「限界集落」になっていた。）

総田や雀あまたに集まりし

原田 良子（中区八田北町）

*句を詠む時の情景や思いもお寄せください。
*俳句・短歌・川柳の次回締め切りは、2017年1月11日（水）です。
*特に、俳句・短歌のご応募お待ちしております。

会員さん紹介 ⑳

百舌鳥支部
古賀 光政さん



昭和36年3月末、熊本から集団就職で堺へ来て、早56年を迎えようとしています。

1年後定時制高校へ通い、辛く、寂しい青春時代でした。18歳で父を亡くし、なお、厳しい生活を送ったことを、今でも忘れられません。耳原との関わりは、15年前妻が病に伏し、入退院を繰り返して、10年前

に緩和病棟で約100日間、多くの皆様に支えられ、温かく見守っていただきました。定年を迎えたら少しでも恩返しをせねばとボランティアをさせていただき、友の会活動に関わってきています。

今年6月、百舌鳥地区に待望の支部とたまり場「なごみ」をオープンすることができました。

まだ半年足らずで十分な活用はできていませんが、地域の皆様に親しまれる憩いの場所として、大いに活用してもらえよう、全力で取り組んでいきます。

皆様方のご協力よろしくお願いいたします。お近くの方、ぜひ一度お立ち寄り下さい。お待ちしております。
（月・火・水曜日、10時から3時、金曜日午前中オープンしています）

編集後記

月間がスタートし、9月のプレ月間も含め2カ月半が経過しました。

仲間ふやしや協同基金への呼びかけ、機関紙「いつでも元気」の普及など、友の会の各支部が非常に頑張っている月間になっています。

今年度初めて訪問行動を行った支部や、地域の声を聞くために何度も訪問行動を行う支部など、動きはさまざまです。各支部が、こ

の月間でさらにもう一歩踏み出す働きかけをしていることは、非常に大きなことだと思います。その一歩をまな苦労があったと思います。

月間のテーマは、「会員と職員が一体となって行動する」ことです。支部のその心意気に、職員もぜひ応えていかな

くてはいけません。と思います。

（奥村）

